

杉原 伸子 SUGIHARA Nobuko

[略歴]

1972 新潟県新発田市生まれ
1997 武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻
日本画コース修了

[個展]

1996 同和火災ギャラリー (東京)
1997 ギャラリー戸村 (東京)
1998 モリスギャラリー (東京, 同 99 年)
2001 松明堂ギャラリー (東京)
2002 楓画廊 (新潟, 同 04 年)
アートスペース小原 (新潟)
2003 ギャラリー PSY (東京)
2004 リベラルアート (広島, 同 05 年)
2005 Live&Moris=fantastic展 one day one artist(東京)
2007 画廊イタリア軒 (新潟/楓画廊企画)
「杉原伸子の世界展」新発田市民ギャラリー (新潟)
2008 ギャラリー蟻 (東京)
2010 ギャラリー full moon (新潟/楓画廊企画)
2013 Kaede Gallery + full moon (新潟)
2017 数寄和 (東京)
数寄和大津 (滋賀)

[グループ展]

1992 多摩総合美術展 佳作賞 (同 93 年)
1993 春季創画展 (~ 96 年)
上野の森美術館大賞展 (同 94 年賞候補)
1994 EXHIBITION-原点から- 佐藤美術館 (東京)
1995 創画展
1997 とくしま「藍フェスタ」技の館 (徳島)
46おくねんめの誕生日展/野外展示 (鹿児島県屋久島)
2001 第 8 回 現代美術小品展 小野画廊 (東京)
今立現代美術紙展' 01 いまだて芸術館 (福井)
2002 紙の造形展 なかとも現代工芸美術館 (山梨)
2003 「箱もの 7 人展」 楓画廊
2005 「花・華・はな 3 人展」 楓画廊 (同 06, 10, 12 年)
2006 「10 人の人物像展」 楓画廊
2008 第 34 回 春季創画展 (同 09, 10, 11, 14, 15, 17, 18 年)
2009 「記憶のかたち」新潟県立万代島美術館
2011 ビエンナーレ OME 2011 青梅市立美術館 (東京)
2011 第 15 回夏の会 ギャラリー青羅 (東京)
2014 第 19 回アートムーブコンクール
大阪府立江之子島文化芸術創造センター
ギャラリーに行こう 2014 数寄和 (同 15 年 数寄和賞)
2015 「新春に日本画を愉しむ」 Kaede Gallery + full moon
2016 「ギャラリーへ 49 行こう」 数寄和
2017 第 44 回創画展

[パブリックコレクション]

守谷育英会 守谷育英会美術奨励賞 (1993)



「月を待つ」 55.0×91.0cm / 絹・岩絵の具・墨 / 2018

 Kaede Gallery + full moon



※隣接のパーキングをご利用下さい

〒951-8065 新潟市中央区東堀通 4-453 tel&fax 025-229-6792
e-mail info@kaede-g.com http://www.kaede-g.com

杉原 伸子 展

2018年11月3日(土)~17日(土)

open 11:00 ~ 18:00 / 7, 14(水) 休廊

【ギャラリートーク】

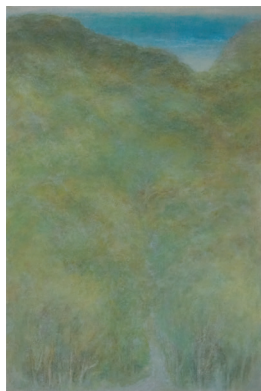
杉原伸子 × 池田珠緒 (新潟県立万代島美術館学芸員) 11/4 sun. 14:00~



上：「雲の道」 33.3×45.5cm / 絹・岩絵の具・木炭



左下：「茜雲」 31.8×41.0cm / 絹・岩絵の具



右下：「海へと続く道」 33.3×22.0cm / 絹・岩絵の具（全て2018年制作）

ふと見た景色が、いつもと違う景色に見える時がある。

それは夜へと移り行くひかりで見た樹だったり、

霧に包まれた山に日があたり始めた時だったり。

私と自然の境界線が曖昧になり混ざり合うような、そんな感覚になる。

私はそんな景色を心の中で映しとろうと試みる。

近年、絵絹や薄い和紙に裏彩色をする技法に取り組み、森の奥の気配を表現出来るよう試みてきました。新作では主に絵絹を支持体とし、母体に柔らかく包まれるようなイメージで自然を表現しています。

今回の個展では新作やドローイングに加え、素材や表現が変わり始めた近年の作品を共に展示致します。心の中で何かが響いて頂ければ幸いです。（杉原伸子）



「柔らかなひかり」 91.0×72.7cm / 絹・岩絵の具・墨 / 2018

杉原伸子さんは東京都青梅市に暮らし始めて20年程になるという。杉原さんが生まれ育った新発田市も二王子山を背後に控えた自然豊かな田園都市だが、今住む青梅はそれにも増して、身近に清流あり、森や山ありの画題には事欠かない環境のようです。

杉原さんの画業は今年で20数年になりますが、一貫して『自然の循環』をテーマにこれまで描いてきました。近年は、その画面が醸し出す雰囲気が「妖気」溢れるものになってきました。その変化をご本人に尋ねると、常に身近にある山や森と自身が住む場所との境界線がなくなり、素直に見え始めたとのこと。樹々の間や森に漂う気配を描きとめるために、画材を研究、試行錯誤したとの返事が返ってきました。これまでより薄い和紙や絹を支持体にするによって、墨や木炭といった画材がより効果的に活かせるようになってきたようです。

今回の展示はその変化を辿れるように、数年前の作品から新作まで20数点を展示致します。当画廊19年目のスタートの記念展です。多くの方々にご覧いただければ幸いです。（三ツ井伸一）